

竜野地区

竜野地区は町の中央東側の平野部及び山間部に位置します。

中世には目野集落を中心に数十ヶ所に及ぶ寺坊が立ち並んでおり、地区内にも多くの神仏が祀られています。また、伝承阿蘇惟前墓や「知行」や「城平」といった地名が残るなど、中世阿蘇氏に関連するものも認められます。

さらに、標高 100 m の台地上には、約 2 万年前の旧石器時代の遺跡「大峯遺跡」も認められます。



82. 目野の石造物（所在 中横田区）

目野地区の個人宅にあります。

高さ 83㍺、最大幅 45㍺、厚さ 14㍺の砂岩製です。上部に月輪が蓮座^{れんざ}上にあり、その中に、阿弥陀如来の種子「キリーク」が薬研彫されています。碑文から「道泉禅門」の追善のために「道音禅門」と「妙昌信女」が願主^{がんしゆ}となり、永禄 2 年（1559）3 月 21 日に追善供養を行い、板碑が建立されたことがわかります。「道泉禅門」は「道音禅門」の父とみられ、「道音禅門」と「妙昌信女」は夫婦と思われる。

また、右側には高さ 62㍺、最大幅 28㍺、厚さ 11㍺の蛇紋岩製板碑もあります。銘文は中央にのみ「帰真妙秀禅定尼靈位」と刻まれ、妙秀禅定尼の墓碑で 18 世紀以前の建立と推測されます。



83. カワベニマダラ（所在 中横田区）

目野薬師堂隣の水場（湧き水）に生息しています。

カワベニマダラは淡水性川苔の一種で、きれいな水場の川石に自生する紅苔です。

以前は水場の底を真っ赤に染めるほど生息していましたが、近年その数は少なくなり、水場の一部で確認できます。

また、このカワベニマダラは清水の遊水池（上早川 3 区）でも生息が確認されています。



84. 宮野観音堂（所在 中横田区）

宮ノ尾公民館の斜め向かいにあります。

切妻造瓦葺妻入のお堂は、間口 280㍺、奥行 392㍺、向拝 66㍺の木造です。厨子には扉と引き出しが付き、間口 51㍺、奥行 27㍺、高さ 65㍺です。仏像は総高 40㍺、像高 27㍺の木造馬頭観音菩薩立像で、両手は欠損しています。祭日は 1 月 18 日です。

宮尾の観音菩薩は、福城寺（美里町）から明治初めに伝えられたそうです。また、お堂の欄間に白毛馬と栗毛馬が天に向かって躍動する姿の絵馬が奉納されていましたが、絵馬は色あせ、朽ちてしまったとのこと。明治 30 年代に宮尾で大火災が起こり、家々はことごとく燃え尽き、観音堂だけが残り、馬頭観音への信仰がより深まったと伝えられています。



85. 中尾釈迦堂（所在 中横田区）

中尾地区にあります。

切妻造瓦葺平入のお堂は、間口・奥行は308㌢、向拝90㌢です。祭壇には二体の仏像が祀られています。一体は総高167㌢、像高140㌢、髪は螺髪らっぽうの青銅造釈迦如来立像で、衣は鮮やかな朱色に彩色されています。石製台座は蓮の花が彫られ、朱・黄・緑に彩色されています。地元では中横田区目野の釈迦堂の本尊と伝えられています。もう一体は、総高48㌢の青銅造立像です。こちらも衣は朱色に彩色されています。



86. 若一王神社（所在 中横田区）

中尾地区への道路の左側に丘陵があり、その中腹に若一王神社の鳥居が見えます。

若一王神社は、寄棟瓦葺の拝殿よせむねかわらぶきと神明造の本殿はいでんからなります。社殿の両側には石灯籠と石柱が一對ずつ並んでいます。

『国郡一統志』には、「宮尾明神 若一王子 阿蘇 甲佐」と記されています。また、『肥後国誌』には、「若一皇子権現宮 祭11月15日 年神社」とあります。慶応4年（1868）の神仏分離令で権現号の使用が禁止され、若一王子権現宮は若一王子神社と改められました。現在は若一王神社と呼ばれています。祭神は伊弉冉尊命いざなみのみことと速玉之緒命はやたまのおみことです。



87. 木原寿八郎の碑（旧：木原寿八郎碑）（所在 中横田区）

甲佐中学校駐車場脇にあります。

今から約170年前、中横田区の立神・庄分・内田地域では、谷川の水で稲作をしており、干ばつが続けば全く収穫できないこともありました。その様子をみた惣庄屋の木原寿八郎は、鵜ノ瀬堰の漏斗口から水を引く計画を立てます。初めは下流に水が流れなくなるのでは、と他の地域からの反対も多くありましたが、自ら説得に廻り、文政7年（1824）から3年かけて新井手を完成させました。その後、嘉永年間（1848～1853）には、用水路は下横田・浅井・上早川地域にも広がり、現在も私たちの生活を支えています。この碑は万延2年（1861）に中横田村庄屋永野淳平以下役人によって木原寿八郎の慰霊碑として建立されたものです。



88. 中横田阿弥陀堂（所在 中横田区）

立神集会所の中にあります。部屋の一角に格子戸（開き戸）があり、中には観音開きの木製厨子があります。厨子は間口44㍺、奥行33㍺、高さ121㍺で、朱や黒、金で彩色され、欄間は13㍺です。仏像は総高83㍺、像高68㍺で、金彩色の木造阿弥陀如来立像です。台座には蓮華が彫られています。



阿弥陀堂に伝わる古文書「阿弥陀堂一字」によると、この阿弥陀如来像は延暦年間（782～806）に造られ、古閑寺に安置されていましたが、小西行長によって寺院が焼失させられ、長い間土中に埋められていたものを、後に多くの人々によって再祀されたとされます。

89. 下横田天神社（所在 下横田区）

有安区から約100㍺入った下横田区の道路脇にあります。

拝殿は切妻造瓦葺妻入で、その奥の切妻造トタン葺の本殿の中には間口28㍺、奥行35㍺、高さ150㍺の両開きの厨子があります。祭神は菅原道真で総高40㍺、像高32㍺の木造男神坐像が祀られています。



『国郡一統志』には、下横田区に「天神森」の記載があります。しかし、『肥後国上益城郡神社明細帳』では飛石菅原神社とあり、その後、現在の下横田天神社になったと考えられます。

祭日は11月24・25日です。

90. 清涼山 寿専寺（旧：清涼山寿専寺）（所在 下横田区）

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

寄棟瓦葺の本堂の建立年は不明ですが、熊本城を建築した大工が建てたと伝えられています。質素な丸太材の屋根組は力強く、幾多の災害を乗り越えてきています。本堂内の欄間等の装飾は壮麗な江戸時代の真宗寺院の姿を見せています。境内には入母屋造瓦葺の鐘楼があります。



『甲佐町史』や『上益城郡誌』によると、寛永2年（1625）に菊池氏の末裔である僧、了西によって創建されたとあります。町内の浄土真宗寺院として最初に建てられ、中心的な役割を果たしてきたと伝えられています。

91. 宇佐園の猿田彦大神と明治 45 年洪水記念碑（所在 下横田区）

下横田消防格納庫の左脇にあります。

建立年は不明で、高さ 128センチ、最大幅 100センチ、最大厚 25センチ、台座は二段で上段 36センチ、下段 70センチです。

台座には明治 45 年（1912）7 月に発生した豪雨を「驟雨的豪雨」、「明治四十五年七月十二日貳十時増水」、「宮内豊内仁田子有安下横田塔木糸田所属堤防拾余箇所潰」などの銘文が記されており、その左脇に谷川道路改修記念碑が立っています。



92. 下横田の石造物（所在 下横田区）

宇佐園の猿田彦の約 260メートル北の畑の中に板碑と一石五輪塔があります。

板碑は高さ 60センチ、最大幅 41センチ、最大厚 21センチの砂岩製で、上部と右側を欠損しています。上部には蓮座が二箇所あり、左側は蓮座のみで上部を欠損しています。右側には地藏菩薩の種子「カ」が薬研彫され、銘文から、「道永禅門」のために永禄 3 年（1560）9 月 10 日に石塔一基を建立したことが分かります。

一石五輪塔は高さ 40センチの阿蘇溶結凝灰岩製で、上部の空風輪と地輪の側面五分の一が欠損しています。その形態から 16 世紀半ば頃の建立と考えられます。



93. 御崎大明神（所在 下横田区）

小鶴地区にあります。

木造亜鉛鉄板葺の本殿は南向きで、間口 200センチ、奥行 225センチです。切妻造瓦葺妻入の拝殿の板書には、「本宮尾根改築茅葺ナリシヲ氏子 2 名協議の上亜鉛鉄板に替えたり、（略）昭和 4 年（1929）10 月 27 日完結ス」とあります。

奥の祭壇に大小の厨子があり、大きな方の厨子には彫刻が施され、石造（凝灰岩）神像二体、小さい方の厨子には損傷した神像が祀られています。

『国郡一統志』には下横田に「御塩焼^{みさき}明神」とあり、『肥後国誌』には「御塩焼社」と記されています。伊勢神宮の御師^{おんし}福島御塩焼太夫^{みさきだゆう}との関係をうかがわれる社号です。明治になって御崎宮神社と改められました。

祭日は 12 月 15 日です。



94. 祇園社（所在 下横田区）

九折集会所の裏にある祇園社は、木造天板葺で間口・奥行共に197㍍、向拝180㍍、厨子は間口43㍍、奥行50㍍、高さ100㍍の木造です。

祭神は総高33㍍の木造男神坐像の素戔鳴尊^{すさのおのみこと}で、疫病退散の神とされ、村人が京都の祇園社から持ち帰ったと伝えられていますが、その真偽は不明です。

なお、祇園社は昭和10年（1935）に現在の場所へ移転した際に新築されました。

祭日は旧暦の6月14日で、かつては、竜野三大祭りの一つに数えられていました。



95. 九折阿弥陀堂（所在 下横田区）

九折地区の中心にあります。

切妻造瓦葺平入のお堂は、壁はブロック積、間口205㍍、奥行175㍍で、厨子は間口73㍍、奥行31㍍、高さ105㍍の木造です。仏像は二体あり、いずれも舟形光背を負っています。右の仏像は総高78㍍、像高58㍍の木造阿弥陀如来立像です。左の仏像は総高43㍍、像高28㍍の木造立像です。

祭日は12月第1日曜日です。



96. 下横田六地藏（所在 下横田区）

九折集会所から約150㍍東にあります。

高さ184㍍で、基礎、笠、宝珠を失っています。15世紀の造立と考えられますが、最下部の八面体の幢身に再建立銘とみられる「大正三年（1914）三月十二日」と彫られています。中台の六面体は一面が高さ15㍍、幅24㍍です。最上部は高さ42㍍の四面体で、各面には輪郭不明の地藏が彫られています。下横田六地藏は本来の形態を留めてはいませんが、地元では「六地藏」として大切に祀られています。

言い伝えによると、明治45年（1912）7月13日の大洪水は、鵜ノ瀬堰（町指定文化財）をはじめ各所の堤防が決壊し、人家の流出、水田は根こそぎ流される惨状となる記録的な大災害でした。その時に六地藏も現在の地に流れ着いたとのこと。



97. 浅井観音堂（所在 浅井区）

浅井区の若宮神社麓の竜野川沿いの山裾にあります。

観音堂内は、八畳敷きの奥の祭壇に虚空蔵菩薩立像、中央に寿老人そして如意輪観音菩薩立像の三体が祀られています。

平成の初め頃の調査によると、祠の裏に文政7年（1824）の名が刻まれた石が確認されています。

毎月8日は祭日で、供物を祭壇に供えて、体の痛み、悩み事や願いをかけ、お参りをすると願いが成就するとの伝承があり、今でも近郷から駆けつけてこられるそうです。



98. 若宮神社（所在 浅井区）

浅井区の丘陵頂上にあります。

参道の石段を登ると、「浅井神社」と記した鳥居があります。鳥居の先には切妻造瓦葺平入の拝殿があり、本殿は神明造となっています。若宮神社は、甲佐神社の末社で本殿には三つの厨子があり、健甕龍命、八井耳玉命、蒲池比咩命、神倭磐余彦命、媛蹈鞰五十鈴媛命が祀られています。境内には、嘉永5年（1852）の石碑や、嘉永2年（1849）の手水鉢があります。『国郡一統志』には、「若宮 山王 阿弥陀 三代将軍」と記されています。また、『肥後国誌』には、「若宮大明神社 祭九月五日」とありますが、現在の祭日は9月15日に近い日曜日です。



99. 日吉神社（将軍堂）（所在 浅井区）

若宮神社境内にあります。

切妻造トタン葺平入のお堂で、中の厨子には二体の男女の木造神像が祀られています。

日吉神社は山王社とも呼ばれています。現在は、日吉神社と将軍堂が一体となっています。『国郡一統志』には「若宮 山王 阿弥陀 三代将軍」と記されています。また、浅井猿王権現社は、日吉神社の境内社であると思われます。『肥後国誌』には「若宮大明神社 祭九月五日 山王」とあり、「阿弥陀 三代将軍」の記載はなくなっています。

祭日は11月23日です。



100. 浅井猿王権現堂（所在 浅井区）

若宮神社境内の中腹にあります。

本殿には二つの厨子があり、左の厨子には素焼きの子猿を抱いた猿が三体祀られています。右の厨子には男神と女神、更に小さな神様が祀られています。また、村の人は「さんのんさん（山王社）」と呼んでいます。

『国郡一統志』には「若宮 山王 阿弥陀 三代將軍」と記されており、猿王権現社は、この山王社である日吉神社の境内社であると思われます。『肥後国誌』には「若宮大明神社 祭9月5日」とあり、「山王 阿弥陀 三代將軍」の記載はなくなっています。

この猿王権現堂については、古くから「河童と猿の戦い」として語り伝えられています
平成28年（2016）熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



101. 田代歳神（所在 上早川1区）

田代地区の北側に、安永4年（1775）3月に建立された石室があります。石室は間口80センチ、奥行109センチ、高さ70センチで、中には高さ18センチ～20センチの四体の神像が祀られており、右から男神、女神、男神、女神の木造坐像が並んでいます。田代上組の守護神であり、歳神は村の家々に1年の実りと幸せをもたらすために、高い山から降りてくる新年の神様とされています。

祭日は毎年12月10日に近い日曜日で、12個の小さな竹筒に入れた甘酒とご飯がお供えされます。以前は、現在地より50メートルほど北側にありましたが、耕地の区画整理事業に伴い、昭和56年（1981）頃、現在地に移設されました。



102. 田代阿弥陀堂（所在 上早川1区）

田代公民館（一心館）の裏にあります。このお堂は、「田代地区共同墓地が移転した際、墓の跡地に先祖供養のために建てられた」と伝えられています。

切妻造瓦葺妻入のお堂は、間口214センチ、奥行255センチ、向拝76センチです。中には間口68センチ、奥行51センチ、高さ99センチの朱色の木造厨子があり、黒く焦げた総高48センチの木造阿弥陀如来坐像が祀られています。この焦げた仏像は、「昔、お堂に無断で寝泊まりしていた人が、不審火で被災したが、幸いにお堂だけが焼けて、村には被害が無かったことから、阿弥陀如来様が守って下さった。」と伝えられています。



103. 田代の猿田彦大神(所在 上早川1区)

田代地区入口の道路左脇にあります。

明治20年(1887)の建立で、高さ190センチ、最大幅75センチ、最大厚60センチ、台座は二段で上段45センチ、下段35センチです。



104. 田代地蔵(所在 上早川1区)

田代地区のほぼ中央にあります。

石室は間口89センチ、奥行87センチ、高さ200センチです。高さ47センチの台座の上に高さ79センチ、幅31センチ、厚さ27センチの舟形光背を負った地蔵菩薩立像が陽刻されています。地蔵の総高は42センチ、像高は33センチです。台座には「寛延二年(1749) 無縁□界」の文字が刻まれています。

地元で大切に守られており、参拝しやすいように手造りのスロープがあります。



105. 大谷歳神(所在 上早川1区)

上早川1区公民館の東側にあります。

平成28年(2016)の熊本地震でお堂が被災し、その跡地に公民館が建てられました。大谷歳神の石室は倒壊し、平成31年(2019)2月に公民館東側に復元されました。復旧工事に際して石室の石板に「宝暦七年(1757)十月建立」の刻銘が見つかり、造立年が明らかになりました。

地区住民からは、「歳神さん」と慕われ、穀物や家を守る神、そして、村の家々に一年の実りと幸せをもたらすために、高い山から降りてくる新年の神様として祀られています。

平成28年(2016)熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。



106. ^{おたに}大谷観音堂（所在 上早川1区）

大谷地区の山の中腹に建てられています。

切妻造瓦葺妻入のお堂は、間口219㌢、奥行255㌢で格子戸両開きの扉がついています。

厨子は木製で間口53㌢、奥行39㌢、高さ104㌢です。仏像は木造十一面観音菩薩立像で総高60㌢、左手には蓮の花を一輪持ち、右手は印を結んでいます。観音像は金彩色で平成7年（1995）に化粧直しされました。

言い伝えでは、観音堂は明治以前には集落の平坦地にありましたが、集落に火事が多発したことから、集落全体を見下ろせる現在地に移されたそうです。毎月第3日曜日には集落の行事として清掃作業が行われています。



107. 光明山 ^{こうげつ}皓月寺（所在 上早川2区）

宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来です。

入母屋造瓦葺の本堂と切妻造瓦葺の鐘楼があります。

皓月寺はもと皓月山上にありましたが、文亀年間（1501～1504）に現在の地に移り、皓月庵と名乗りました。

『新甲佐町史』によると、開基は明治12年（1882）寺号公称とありますが、同町史には天保元年（1830）5月25日付けの本願寺と肥後国門末^{もんまつ}との往復書簡を記録した記録（本願寺史料集成『肥後国諸記』）に「肥後国皓月寺」とあることから、既に江戸末期には本願寺から寺号免許を得ていたと考えられます。



108. ^{おみね}大峯遺跡（所在 上早川2区）

大峯遺跡は上早川2区の大峯公民館から約100㍍南の標高約100㍍^{ちゅうせきへいや}の台地上に立地し、沖積平野との比高は約50㍍です。

昭和40年（1965）1月に熊本県で初めて旧石器時代の本格的な発掘調査が実施されました。この発掘調査は、考古学者だけではなく地質学者も参加する総合的な発掘調査でした。

その結果、旧石器時代の石器と縄文時代の土器や石器が出土し、九州で初めてローム層（火山灰層）から石器が発見された遺跡として評価されました。

このローム層は放射性炭素年代測定（C14）の結果、約2万年前の土層であることが明らかになり、出土した旧石器時代の石器は約2万年前を中心としたものであることも分かりました。



109. 大峯菅原神社（旧：大峰菅原神社）（所在 上早川2区）

上大峯集会所の裏手にあります。

高さ 87㍍の石造り台座上に間口 100㍍、奥行 90㍍、高さ 120㍍のコンクリート造の石室があります。中には間口 25㍍、高さ 40㍍の木製厨子があり、高さ 25㍍の木板製の菅原道真が祀られています。

この神社は、『国郡一統志』には「天神」、『肥後国誌』には「天神社」、『肥後国上益城郡神社明細帳』には「大峯天神社」へと呼び名が変化しています。

祭日は1月15日です。



110. 大峯地藏尊（所在 上早川2区）

大峯地区の最も奥の山裾にあります。

以前は近くに堤があり、地域の水田を潤していましたが、現在は埋立てられています。

コンクリート造の石室は間口 53㍍、高さ 96㍍、屋根は片流れです。

総高 50㍍、像高 40㍍の石造地藏菩薩立像は、子守地藏として祀られ、以前は子ども達によって祭りが行われていたようです。

地藏像は平成19年（2007）3月2日に木造から石造に作り替えられています。

祭日は1月15日です。



111. 大峯馬頭観音（旧：大峰馬頭観音）（所在 上早川2区）

大峯地区中央の道路際にあります。

石室は間口 53㍍、奥行 36㍍、高さ 90㍍です。観音像は総高 43㍍、像高 33㍍の石造馬頭観音菩薩坐像です。明治9年（1876）4月に建立された三面六臂の菩薩像で、現在は正面の顔の右半分が欠けています。馬頭観音は農業の仏様として農民の崇拝を受け、特に家畜や農作物の安全や豊穡を願ってきました。

言い伝えによると、「この場所で生える笹を牛馬に食べさせると元気が出る」と言われています。



112. 下大峯の観音堂（四方仏）（所在 上早川2区）

下大峯地区中央の町道脇の手摺付き階段を登った所にあります。

高さ40㍻の台座に二つの石室があり、右の石室は間口40㍻、奥行35㍻、高さ90㍻です。仏像は高さ46㍻、最大幅30㍻、最大厚16㍻の砂岩製で、三面八臂の石造馬頭観音菩薩坐像です。石室の側面の銘文から明治23年（1890）12月に「本田亀／全安平／全順次／植村玄伸／本田光治」が建てたことがわかります。左はブロック造の石室の中に高さ46㍻、最大幅30㍻、最大厚16㍻の砂岩製墓碑があります。月輪の中に「ア」の種子、その下に「権律師昌弥」とあり、江戸後期の天台宗僧侶の墓碑と考えられます。

観音堂は馬の無病息災を祈願し、明治35年（1902）12月の建立です。

祭日は7月10日です。



113. 城平板碑（所在 上早川2区）

県道稲生野甲佐線の竜野川に架かる城平橋から約130㍻東の道路右側にあります。

板碑は高さ58㍻、最大幅121㍻、最大厚28㍻の砂岩製で東向きに立っています。板碑の中央上部には、蓮座の上の月輪内に阿弥陀如来の種子「キリーク」が薬研彫されています。蓮座に向かって左側に「貞阿弥陀 生智 亀霍 万徳 亀太良満龍」の俗名が刻まれ、大永5年（1525）2月28日に建立された結衆板碑（逆修碑）であったことがわかります。

板碑は一般的には戒名を刻むことが多いため、実名が記されたこの結衆板碑は貴重な事例です。



114. 上知行の天神社（所在 上早川3区）

上知行地区の宮ノ尾川に架かる橋の傍にあります。

高さ70㍻の基礎の上に石室が建っており、大きさは間口160㍻、奥行121㍻、高さ168㍻です。中には天神と弁財天が祀られています。天神は総高46㍻の木造男神坐像です。弁財天は総高38㍻の木造女神坐像です。

石室の横には、御神木とされるムクの老木があります。

上知行地区では11月25日を祭日とし、下知行地区では12月15日を祭日として、器に入れたご飯を奉納します。奉納したご飯の一部を木の葉に移し、天神と御神木に供え、残りを「天神さんのめし」として住民が頂きます。



115. 上知行薬師堂（所在 上早川3区）

上知行公民館の中にあります。

公民館の一角には、観音開きの祭壇があり、総高65センチ、像高47センチ、幅33センチの木造薬師如来坐像が祀られています。髪は螺髪で、体は水色と朱色に彩色されています。左手には薬壺、右手は前に差し出していますが、人差し指が欠損しています。

地域の繁栄を祈って毎年1月12日には住民がお堂に集まり、座が開かれます。以前のお堂は、明治24年(1891)9月16日に新築され、昭和40年(1965)8月6日の台風により大破しました。その後、平成17年(2005)公民館新築に伴い、現在の場所へ移転しました。



116. 下知行の猿田彦大神（所在 上早川3区）

町営バス城平バス停先20メートルを右折し、100メートル進んだ左側にあります。

明治20年(1887)の建立で、高さ155センチ、最大幅165センチ、最大厚60センチ、台座は二段で上段50センチ、下段100センチです。

祭日は3月15日と9月15日です。



117. 幸野の地藏堂（所在 上早川3区）

幸野地区のほぼ中央にあります。

切妻造瓦葺妻入のお堂は、間口293センチ、奥行325センチ、向拝は120センチです。お堂の中には間口63センチ、奥行41センチ、高さ95センチで木製の厨子があります。中には総高55センチ、像高37センチの木造地藏菩薩坐像が祀られています。

地藏尊は、火除けや地域繁栄の守り神であり、古くから「延命地藏さん」としても親しまれています。

なお、お堂は平成28年(2016)の熊本地震で損壊したことから、平成30年(2018)に再建されています。その際、旧祠の裏に「文久二年(1862)七月」と記載されていたことが確認されています。

祭日は1月24日と7月24日です。



118. 海陸大明神（所在 上早川3区）

竜野保育園の近くにあります。

切妻造トタン葺平入の本殿は、間口325㌢、奥行203cm、向拝120㌢です。中には木製の厨子があり、間口55㌢、奥行25㌢、高さ95㌢です。厨子には二体の木造神像坐像が祀っています。右は総高・像高共に25㌢の豊玉姫尊^{とよたまひめのみこと}で、左は総高・像高共に23㌢の綿津見神^{わたつみのかみ}です。

この地区には太古の昔、海幸彦と山幸彦の兄弟が住んでいたという言い伝えがあります。地元では、海陸大明神を「きゃーらくさん」とも呼んでいます。

祭日は12月10日です。



119. 清水の湧水池（所在 上早川3区）

幸野地区の県道稲生野甲佐線沿いにあり、道向いには海陸大明神があります。

湧水池には樹齢700年以上の大スギがあり、現在も根元からは、幸野原から浸透してきた水が湧き出ています。

以前は、野菜を洗ったり、洗濯場や子ども達の遊び場であったりと、生活に欠かせない湧水池だったそうです。

現在は、生活用水としての利用はありませんが、毎年1月の初寄合時には周辺の掃除をし、御神酒^{おみき}を上げて1年間の無事を祈っています。



120. 小原山ノ神^{こばる}（所在 上早川4区）

林道山ノ神線の砂防ダムの先を50㍍以上登った沢の横にあります。砂防ダムの先は傾斜が急な山道で、標高は約190㍍です。

祠は木とトタン屋根でできています。屋根は片屋根で地面まであり、間口294㌢、奥行196㌢、高さ196㌢の鳥居の高さは110㌢です。斜面にあるため、周りの石を集めて平坦にしています。

地元の方の話では、「以前は、祭日は12月15日でしたが、現在は12月15日に近い日曜日に米と塩サバを持って現地に行き、沢の水と羽釜、近くに落ちている杉などを使って米を炊き、塩サバを焼いてお供えした後、お神酒を上げて食べて帰っていた」、とのこと。管理は集落の4軒で行っています。



121. 小原観音堂 (所在 上早川4区)

山口観音堂から700^{メートル}北の右手の山裾にあります。

切妻造トタン葺妻入のお堂は、壁はブロック積、間口141センチ、奥行119センチ、高さ180センチです。ブロックの棚の上に、石像三体が祀っています。右は総高38センチ、像高34センチの石造観音菩薩立像で、両手で宝珠を持っています。中央は総高32センチの男神坐像で、烏帽子をかぶり手には杓を持っています。



言い伝えでは、「明治10年（1877）4月3日、西南戦争に出征した村人が宮崎県佐土原から持ち帰り、昭和2年（1927）に観音堂が建てられた時に、現在地に三体が祀られることになった。」とされています。

122. 伝承阿蘇性前墓これさき(所在 上早川4区)

小原観音堂より約30^{メートル}北の道路沿いに立つ「お
たちょさん（伝承阿蘇惟前墓）」の標柱の奥に
あります。

阿蘇惟前は永正10年（1513）に阿蘇惟豊との争いに勝利した父・惟長の後見を得て阿蘇大宮司となるが、永正14年（1517）に惟豊の反撃を受けて八代の相良長毎のもとに逃れました。大永3年（1523）に堅志田城を落とし、甲佐・砥用（美里町）・中山（美里町）を支配下に治めましたが、天文12年（1543）に堅志田城を惟豊に落とされ、再び八代の相良長唯のもとに逃れました。永禄3年（1560）に阿蘇領小国に侵攻するが撃退されました。



竜野地区は、阿蘇大宮司の拠点「浜の館」があった矢部（山都町）との重要な交流地点でした。地元では惟前のことを「おたっちょさん」と呼んでいます。「おたっちょ」とは、お館様のなまったものと言われています。現存の墓は宝篋印塔の残石のみで、明確な墓碑はありません。

おぼる
123. 大原地蔵堂 (所在 上早川4区)

大原公民館の中にあります。

厨子は間口44㌢、奥行26㌢、高さ64㌢です。仏像は総高45㌢、像高30㌢で、左手には宝珠を持ち、舟形光背を負う木造地藏菩薩坐像で、台座は13㌢です。

言い伝えによると、「17世紀の初め大原地区を開拓するため、上大谷より守護として地藏尊を勧進していたが、村づくりの基礎もでき、上大谷に返還すべくお伺いをたてたところ、地藏尊はこれを拒んだため、以来300年の永きにわたりこの場所に祀られている」、とされています。加えて、今まで大原地区に火事がないことから「火伏地藏」として厚い信仰を得ています。



124. 山口観音堂（所在 上早川4区）

山口公民館の中にあります。厨子は木製で、間口52㍺、奥行38㍺、高さ125㍺です。仏像は総高90㍺、像高58㍺の木造観音菩薩立像です。光背は輪光を負い、左手に子どもを抱き、金彩色された子安観音で、台座は蓮華座です。

古くから安産の仏様として信仰を集め、山口地区では年2回祭事が行われています。

祭日は1月18日と7月10日です。



125. 六谷地藏尊（所在 上早川5区）

六谷公民館の近くにあります。

高さ180㍺の石室の中に、台座30㍺、総高93㍺の石造地藏菩薩立像が祀られています。地藏菩薩には、「宝暦9年（1759）10月・安永6年（1777）正月吉日」、右側に立つ石灯籠には「弘化2年（1845）」と刻まれています。

「子どもの守り神」として信仰されており、お菓子が供えられています。

祭日は年2回あり、1月・7月の14日に1番近い日曜日に行われています。また、右手斜面にも二体の石造地藏菩薩立像があります。





